

# 新にい潮しお

校訓

郷土を愛し  
明るく素直で  
たくましく

文責：校長 川内康範



## 進路について考えてみました……

テレビの話になってしまおうのですが、先日、Eテレで「U・29 人生デザイン」という番組を見ました。一人前の漁師をめざしている若者（29歳）のドキュメンタリーです。等身大の若者の姿が描かれていて、つい引き込まれてしまいました。若者は宮崎県出身、高校卒業後10年間、東京でフリーターをしながら気楽に生活をしていました。しかし、このままでは将来が見えない、家族も持ち

たい、という気持ちから、去年5月、愛媛県のある漁村に移住します。そして、地元漁師さんの指導を受けながら一人前の漁師をめざしているのです。映像では、先輩漁師と船に乗って釣り糸を海に流しているかどうかが、糸の引き具合でわかるのですが、彼にはまだ要領がつかめません。船

の操縦も免許は取ったものの、実践はまだまだ、練習中です。3年すれば漁師になれると聞き、この世界に飛び込んだ彼でしたが、テレビで見ている限り、まだまだ見習い・雑用の毎日でした。私は他人ながら、この人は大丈夫かなあ、続くのかなあと思っていると、予想に反し、彼は「この暮らしは楽しいです。」とニコニコしながら答えていました。少しずつでも技術が身についていけば、それがやりがいにつながっていくのでしょうか。また、漁師さんたちとの人間的なつながりが生まれて、そこが居心地のいい場所になっているのだろうと感じました。このようにして、彼はここで生活の根を下ろし、仕事のやりがいや、幸せを感じながら自分の生活を設計していくのだと思います。彼の将来の生き方も見えたような気がして、いいなあと思いました。

テレビの彼の場合、東京でのアルバイト生活は彼なりに意味のある10年間だったのでしようが、父親的な言い方をすれば、もっと早く自分が真剣になれるものが見つかったらよかったのになあと思ってしまう。中学生のみなさんも、自分の将来についていろいろ考えてほしいと思います。

図書室には次のような本もあり、この中には、次のような職業名が紹介されています。



## 各地で農機シェアリング 異なるコメ収穫時期生かす

(長崎新聞記事より)

「購入の負担が重い大型農機を、米や麦の収穫時期が異なる遠方の農家らで共同利用する取り組み」がスタートするそうです。中学生のみなさんの中から大島の農業を背負ってくれる人が出てくれば、その頃は農機シェアリングの時代になっている

かもしれません。

- ・ 農業従事者
- ・ 酪農従事者
- ・ 園芸技術者
- ・ 水産従事者
- ・ 建築設備工
- ・ 介護福祉士
- ・ 調理師
- ・ 消防官
- ・ 警察官

ここ大島にもこれらの職業の方はたくさんいらっしゃると思います。そして、一口に「農業」といってもその種類や規模などは様々です。大島では「葉たばこ」が育てられていて、特徴的だと思えますが、どのような経緯で大島で葉たばこなんだろうか。理由があるはずですよ。奥が深いと思います。先日の新聞では「各地で農機シェアリング」という記事が載っていました。「購入の負担が重い大型農機を、米や麦の収穫時期が異なる遠方の農家らで共同利用する取り組み」がスタートするそうです。中学生のみなさんの中から大島の農業を背負ってくれる人が出てくれば、その頃は農機シェアリングの時代になっている

PTA臨時保護者会・役員会への

ご出席ありがとうございます。